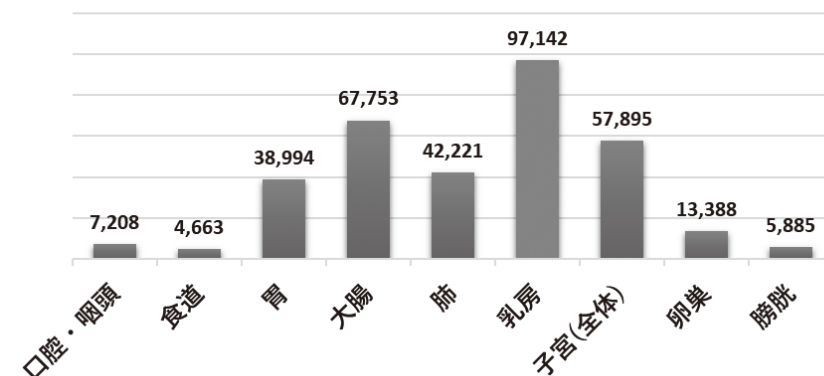


女性が増えている病気として、出産数が減少したことや月経回数が増えたことなどによる子宮内膜症、子宮筋腫、卵巣のう腫、卵巣がん、子宮体がんなどがあります。また、乳がんも初経年齢が早い、閉経年齢が遅い、出産・授乳歴がない、喫煙（受動喫煙も含む）、肥満、生活習慣の変化などの要因から増えてきています。

日本人女性がかかるがんのなかで最も多いのは乳がんです（図1）。普段の生活で初期のがんでは症状がほとんどないため初期のがんが見逃されやすく、がん細胞が増殖し始めても、自覚症状はほとんどありません。自覚症状がでるのは、がん細胞が増え、体に害を与え始めてからがほとんどです。検診を受けることで触れるだけではわからない段階のがんや、しこりとしてあらわれないがんも発見できま

す。近年、乳がんは早期発見・早期治療で90%以上の人が助かることが分かっています。年一度の定期的ながん検診が重要視されています。

(図1) 部位別がん罹患数（女性2019年）

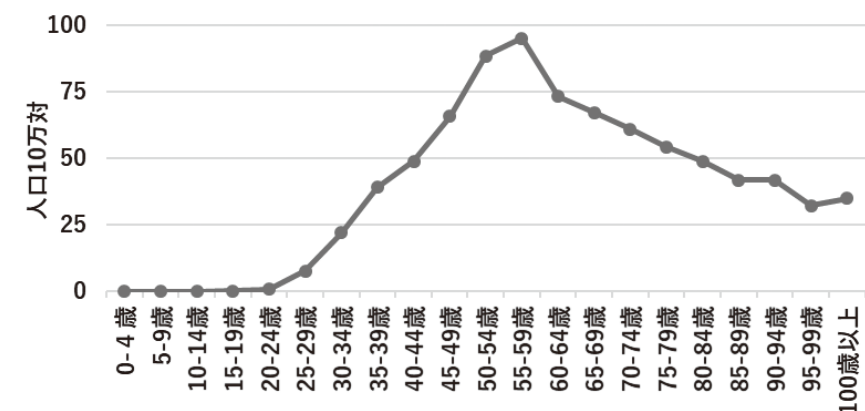


また、子宮がんは25歳から罹患率が増加しており、低年齢化が進んでいます（図2）。子宮がんもがん細胞が増殖し始めても、自覚症状はほとんどありません。子宮がん検診では、がんになる前の「前がん病変」や初期のがんなど、自覚症状がない段階も発見することができず。早期発見・治療ができるよう定期検診を受けることは、あなたの体と未来の生活を守ることにつながります。

検診を年一度の大事な日

町では受けられる人の負担感を少しでも減らすため、病院に行かなくても身近な場所で一度に「乳がん・子宮がん検診」の両方の検査が受けられるよう、ハピネスで年1回同日実施しています。女性は月経やホルモンの変化などで心身の揺らぎを日々感じやす

(図2) 年齢階級別 子宮がん罹患率（2019年）



申込み・お問い合わせ
保健福祉課保健・介護グループ
総合福祉センター「ハピネス」
☎・☆4-33356

す。年に一度の検診で、自身と向き合うきっかけにしてみませんか。

乳がん検診について

マンモグラフィ（乳房のレントゲン写真）をとります。乳がんを早期に見つけるためには、乳がん検診を受けることに加えて、毎月1回自分で乳房を見て触る「自己検診」も大切です。40歳からは2年に1回、乳がん検診を受けましょう。

子宮がん検診について

子宮がん検診は、子宮の入り口（頸部）の細胞を検査します。閉経後で不正出血のある場合には、体部（内膜）の細胞を検査します。20歳からは2年に1回、子宮がん検診を受けましょう。また、女性に増えている病気を見つかるために、子宮や卵巣の状態をみる超音波検査は、子宮がん検診とあわせてお申込みいただけます。超音波検査ではがん以外にも子宮筋腫や卵巣のう腫などを見つけることができます。



■集団検診日程

検診日	検診会場	乳がん検診 (40歳以上)	子宮がん検診 (20歳以上)
9月11日(月)	総合福祉センター「ハピネス」	●	●
11月30日(木)	旭川がん検診センター(バスツアー)	●	●

*バスツアーは、朝8時に旭川がん検診センターのバスで下川を出発し、午後1時~2時頃に下川に帰って来ます。

■検診料金

検診内容	対象者	対象者			後期高齢者 医療被保険者
		一般	国保		
乳がん検診	一方向	50歳以上	1,700円	900円	600円
	二方向	40~49歳	2,000円	1,000円	
子宮がん検診	頸部	20歳以上	1,800円	900円	600円
	体部	閉経後、不正出血等のある人	800円	400円	300円
子宮・卵巣の超音波検査	20歳以上	どなたも1,100円			

お得な無料の機会にぜひご利用ください

今年度、次の年齢に該当する方ががん検診無料の案内文を郵送しています。検診の申込みをして、検診当日にご持参ください（紛失した場合は、再発行しますのでご連絡ください）。

◇乳がん検診…40歳・41歳・46歳・51歳・56歳・61歳になる人

◇子宮がん検診…20歳・21歳・26歳・31歳・36歳・41歳になる人

平日は忙しい…そんな方に
おすすめの日曜検診のご案内

旭川がん検診センターで、ご都合にあわせて個別に受けることもできます。日曜日に行われる「日曜検診」は6回（5月14日、9月24日、10月15日、11月12日、2月11日、3月24日）ありますので、お仕事等で平日の検診が難しい方にもおすすめします。乳がん・子宮がんはもちろん、その他のがん検診（胃・肺・大腸）や特定健診などの項目も1日ですべて受診することもできます。旭川がん検診センターに直接お問い合わせ、お申込みください。

旭川がん検診センター
予約専用フリーダイヤル
☎0120-972-489

